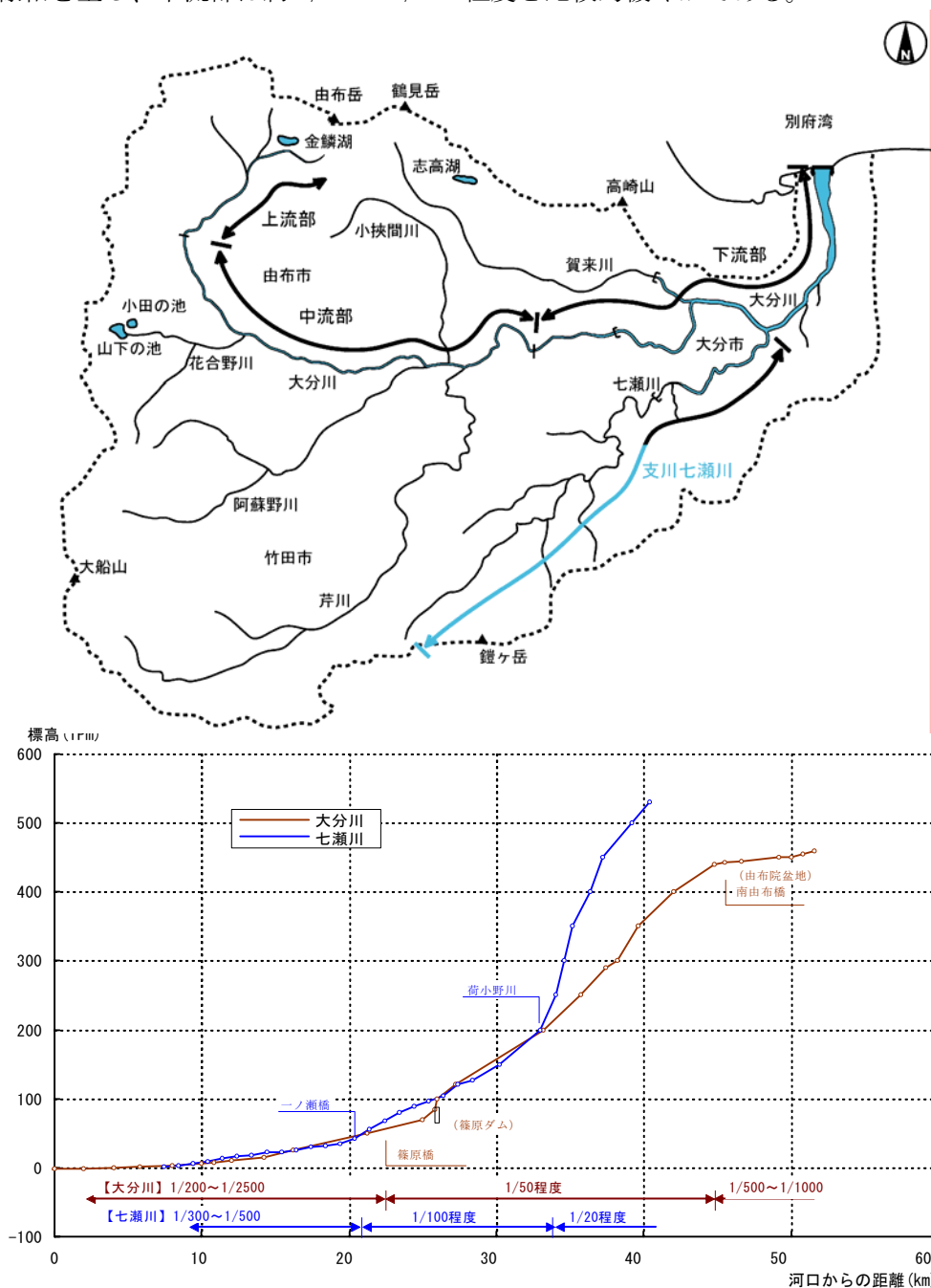


8 河道特性

大分川は、大分県中央部の太平洋側に位置し、その源を由布市湯布院町由布岳（標高1,583m）に発し、由布院盆地を南下しながら途中由布市湯布院町馬渡付近から流れを東に変え、阿蘇野川、芹川等の支川を合わせ由布市挾間町において大分平野に入り、さらに賀来川、七瀬川等の支川を合わせ大分市豊海において別府湾に注ぐ。

河床勾配は、下流部では約 $1/200 \sim 1/2,500$ と緩やかであるが、中流部は峡谷形態をなし $1/50$ 程度の急流、上流部は由布院盆地となり約 $1/500 \sim 1/1,000$ と比較的緩くなる。

支川七瀬川は大分市野津原の一ノ瀬橋より上流部が約 $1/20 \sim 1/100$ 程度と急流で山地溪流の様相を呈し、下流部は約 $1/300 \sim 1/500$ 程度と比較的緩やかである。



(1) 上流部の河道特性【南由布橋より上流】

由布岳を發した大分川は、途中白滝川、宮川等^{しらたき みや}を合わせながら、由布院盆地を緩やかに蛇行しながら南下し、由布市湯布院町の国道 210 号南由布橋に至る。

大分川上流部の河床勾配は 1/500～1,000 と緩く、河床は礫混じりの砂泥となっている。

【上流部（由布院盆地）の全景】



(出典：大分河川国道事務所)

【50.0k 由布市湯布院町城橋付近の河道の状況】



(出典：大分河川国道事務所)

【43.0k 由布市湯布院町南由布橋付近の河道の状況】



(出典：大分河川国道事務所)

(2) 中流部の河道特性【南由布橋^{しのはら}～篠原橋

中流部は、由布川^{ゆふがわ}軽石層^{かるいしそう}を深く侵食^{しんしょく}した峡谷^{きやく}の形態^{けいぎ}を呈し、蛇行^{じやうぎやう}しながら途中^{ちゆうちゆう}阿蘇野川^{あそのの}、芹川^{せりがわ}、小挾間川^{おぼさま}等を合わせながら由布市庄内町^{ゆふし しょうない}篠原橋に至る。河岸の大部分は崖状となる。

河床勾配は、1/50 程度と急で瀬・淵が連続し、河床材料は岩角^{がんかく}や巨石^{きよせき}、玉石^{たまいし}が多く湾曲部など砂礫が堆積する。

【39. 0k 由布市湯布院町湯平大橋付近の河道の状況】



(出典：大分河川国道事務所)

【32. 0k 由布市庄内町庄内大橋付近の河道の状況】



(出典：大分河川国道事務所)

【26. 0k 由布市庄内町小野屋付近の河道の状況】



(出典：大分河川国道事務所)

(3) 下流部の河道特性【篠原橋～河口部】

下流部は、沖積平野が形成され、比較的緩やかな流れとなり途中賀来川、七瀬川等の支川を合わせながら大分市豊海にて別府湾に注ぐ。

篠原橋から府内床止の区間は瀬・淵を形成しながら大きく蛇行し、河床勾配は $1/200 \sim 1/700$ 程度である。河床材料は砂礫が主体となり代表粒径は約 $60 \sim 70\text{mm}$ 程度である。

汽水域となる府内床止より下流では瀬・淵は明瞭でない。河床勾配は $1/2,500$ 程度と緩く、河床材料は代表粒径 $1 \sim 2\text{mm}$ 程度の粗砂となる。

【18.0k 由布市挾間町同尻橋付近の河道の状況】



(出典：大分河川国道事務所)

【9.0k 大分市明礪橋付近の河道の状況】



(出典：大分河川国道事務所)

【0.0k 付近の河道の状況】



(出典：大分河川国道事務所)

(4) 支川七瀬川の河道特性

七瀬川は、源流から大分市野津原の一ノ瀬橋付近までは急峻な^{おおの}大野山地に沿って山地溪流を呈し流下し、それより下流は比較的緩やかな流れとなり、大分市^{みつよし}光吉において大分川と合流する。

源流から一ノ瀬橋の区間は、河床勾配が $1/20 \sim 1/100$ 程度と急で、河床は岩角や巨石で覆われ瀬・淵が連続する。

一ノ瀬橋から下流区間は、河床勾配が $1/300 \sim 1/500$ 程度と比較的緩やかで、瀬・淵を形成しながら大きく蛇行する。河床材料は砂礫が主となり代表粒径は $40 \sim 50\text{mm}$ 程度である。

【15.0k 大分市辻原付近の河道の状況】



(出典：大分川ダム工事事務所)

【7.0k 大分市廻栖野付近の河道の状況】



(出典：大分川ダム工事事務所)

【2.0k 大分市玉沢付近の河道の状況】



(出典：大分河川国道事務所)